

## 住宅の地方性小委員会 通信

2017 年度 総括号(No.17-01) 2018 年 3 月 25 日発行

### 内容(目次)

1. 春季「滋賀研究会」(2017 年 5 月)の開催報告
2. 大会時「尾道研究会」(2017 年 8 月)の開催報告
3. 大会研究協議会 & 拡大委員会の開催報告
4. 2018 年度の活動方針について
5. 2018 年度春季研究会「奈良研究会」の開催案内
6. その他

主 査 : 佐藤 由美(奈良県立大学 地域創造学部) Tel.&Fax. 0742-93-5282

E-mail: ymsato07@yahoo.co.jp y-sato@narapu.ac.jp

「住宅の地方性小委員会通信」の発行がたいへん遅くなってしまいました。2017 年度の小委員会活動の総括号としてお届けします。さらに、2018 年度の活動方針についてもお知らせいたします。

なお、2017 年 4 月に主査・幹事・委員の交代があり、新たな体制に移行しました。6 月には、登録メンバーの連絡先などを確認し、更新しました。

### 1. 春季「滋賀研究会」(2017 年 5 月)の開催報告

恒例の「住宅の地方性小委員会・春季研究会」は、5 月 26 日(金)～28 日(日)、滋賀県の琵琶湖の南岸・東岸・西岸にそれぞれ位置する大津市・近江八幡市・高島市で「琵琶湖沿岸地域における居住の諸相」をテーマに開催しました。

なお、本企画・運営等は前主査の吉田友彦先生に全面的にお願いいたしました。ここに改めて御礼申し上げます。

#### 1)開催日時

日時:2017 年 5 月 26 日 13:30～18:30(大津市役所・市内見学会)

5 月 27 日 9:30～17:00(近江八幡市文化会館・見学会)

5 月 28 日 10:30～12:00(針江生水の郷見学会)

#### 2)プログラム

**5月26日(金):大津市役所での研究会・都市開発事例の見学会**

**(1)研究会「湖南地域・大津市における居住の動向と課題」**

大津市 みらいまちづくり部による報告・質疑応答

①大津市における都市計画の概要(まちづくり計画課)

②大津市住宅マネジメント計画等の概要について(住宅課)

③大津市の空き家対策について(空き家対策推進室) 質疑応答

**(2)見学会:大津市内の都市開発事例(貸切バスにて)**

・大津市駅西地区区画整理、旧滋賀町認定団地、保養所の転用



大津市駅西地区 (区画整理)



**5月27日(土):近江八幡市での研究会及び見学会**

**(1)研究会:湖東地域における居住の動向と課題**

- ①主旨説明・報告 吉田友彦先生「国勢調査による湖東地域の年齢別人口バランスの特性」
  - ②報告 眞嶋二郎先生「滋賀県における住宅市場圏の特徴と圏内市町村の位置」
  - ③報告 益田卓弥氏(近江八幡市)「離島集落・沖島の存続可能性の条件」
- 質疑応答



報告者の方々(左から、吉田先生、眞嶋先生、益田氏)



研究会の様子

**(2)見学会**

近江兄弟社高校(1931年築のヴォーリズ建築)、西川庄六商店(滋賀県指定文化財)、重要伝統的建造物群保存地区・重要文化的景観指定の八幡堀付近の散策

○懇親会:京料理 宮前



ヴォーリズ学園・ハイド記念館



八幡堀



西川庄六商店にて



**5月28日(日):高島市針江での見学会**

**湖西地域の水資源を活かしたまちづくり**

針江生水の郷委員会によるガイド(Aコース)



ボランティアガイドさんによる説明



水路が身近な針江のまちなみ



各戸の庭先にある「かばた」



## 2. 大会時「尾道研究会」(2017年8月)の開催報告

日本建築学会広島大会の開催にあわせて、恒例の研究会を大会開始前日に、広島県尾道市において開催しました。開催に際し、広島県住宅課の全面的なご協力を得ました。改めて、ここに御礼申し上げます。参加者数は、研究会 33 人、見学会 29 人と盛況でした。

### 1)開催日時

2017年8月30日(水) 13:30~18:00

### 2)プログラム

#### (1)研究会:広島県・尾道における住宅政策

- ①報告 河野龍氏(広島県住宅課課長):広島県の住宅施策の概要
- ②報告 豊田雅子氏(NPO 法人 尾道空き家再生プロジェクト 代表理事):空き家の再生と活用
- ③報告 高橋大蔵氏(住宅 & 相続支援びんご NPO センター 理事長):民間賃貸住宅における居住支援 質疑応答

#### (2)尾道市内の空き家活用事例見学会

NPO 法人尾道空き家再生プロジェクトのガイドツアー

- ・山コース:商店街・あなごのねどこ・みはらし亭
- ・まちコース:商店街・ガウディハウス・北村洋品店・U2 懇親会 レスポワール ドゥ カフェ

○研究会会場 尾道商業会議所記念館 2 階 議場 (1923 年築のもと議場・市重要文化財)

### 3)研究会・見学会の概要

#### (1)研究会

まず、広島県住宅課の河野課長より、広島県の住宅政策のうち、県住生活基本計画に基づき実施されている空き家対策や居住支援協議会等の取組み、県営住宅における居住支援等の説明があった。近年、県では、県内各市町村や民間不動産・居住支援団体等との連携体制(協議会)を整備し、市町が主体となった相談体制の構築に向けた支援や、オーナー向けのセミナー、高齢者向け住宅見学会など、多面的な取組みを実施しており、その内容について報告いただいた。

次に、尾道市内を中心に、空き家活用の先駆的な取り組みを行っている NPO 法人尾道空き家再生プロジェクトの豊田代表より、空き家の改修・活用に取組んだ経緯やまちづくりとしてのプロジェクトの考え方、活動における課題について報告いただいた。

さらに、広島県居住支援協議会において居住支援法人として活動している住宅 & 相続支援びんご NPO センターの高橋理事長より、活動の目的や内容、日々のご苦労、今後の課題等について報告をいただいた。

その後の、活発な質疑と応答があった他、各地の取組みとの比較や尾道の地形や歴史・文化等との関係性等の意見交換が参加者との間で行われた。



研究会会場の風景



ご報告いただいた各講師 (左から河野課長、豊田代表、高橋理事長・越智氏)

## (2) 見学会

山コースは、商店街を東に歩きながら、NPO 法人尾道空き家再生プロジェクトの豊田代表の案内のもと、再生物件の「路地の家」の路地や商店街の中の店舗を改修し、1階をカフェ、2階をゲストハウスにした「あなごのねどこ」を見学した。その後、瀬戸内海の眺めを堪能しながら、千光寺に向かう斜面沿いに立地する坂の上のゲストハウス「みはらし亭(登録有形文化財)」に到着、若い宿泊客たちで賑わっている様子等を見学した。

まちコースは、商店街を西側に進み、JR 山陽線北側の斜面沿いの住宅地に立地する空き家活用物件を見学した。最初に訪れた通称「尾道ガウディハウス」では、改修工事中の建物内を見学することができ、急斜面に住宅が密集する尾道の住空間を体感することができた。つぎに、その斜面のふもとにある北村洋品店やもともと木造設備共用アパートであった三軒家アパートメントを見学した。前者は子連れママの井戸端サロンとして、後者はものづくりの拠点として再生されていた。いずれも、昭和を感じることができるレトロな雰囲気を残した空間となっている。これに対し、海沿いの倉庫をコンバージョンした U2 は、天井の高いおしゃれな商業空間としまなみ海道を自転車で渡るサイクリスト向けのモダンなホテルが複合された建物となっていた。



あなごのねどこ



みはらし亭



尾道ガウディハウス



サイクリスト向けホテル



倉庫をコンバージョンしたU2



### 3. 大会研究協議会(2017年8月) & 拡大委員会(同 10月) 開催報告

2017年度日本建築学会大会(会場:広島工業大学)において、住宅ストック法制度・政策小委員会との共催による建築社会システム部門研究協議会「建物の終活を考える」を大会初日(8月31日(木) 14:30~18:00)に開催した。

研究協議会では、人口・世帯減少時代において、建築をどのように「終わらせる」か、をテーマに、様々な「建物の終活」の実態や課題を概観し、そのためのプロセスプランニングの必要性や人・都市の将来像・エリアの価値等との関係を意識しつつ、多分野での連携による「終活」に向けた建築社会システムの構築の必要性について議論が行われた。

本小委員会からは、主題解説者として長谷川洋氏、コメンテーターとして川崎直宏氏、記録担当として内海康也氏に参加いただいた。

2017年10月23日17:30~19:00、住宅の地方性小委員会拡大委員会として、建築会館会議室にて、「協同の住まいと社会関係資本ーイングランドとオーストリアの比較研究からー」を開催した。

拡大委員会では、イングランドとオーストリアを主なフィールドに、住宅とコミュニティについて研究されているリチャード・ラング氏(ヨハネス・ケプラー大学博士研究員)による研究報告が行われた。ラング氏は、日本のコーポラティブハウジング、コレクティブハウジングなどを包含し、より社会的な側面を有し、より広い近隣関係を構築するような「協同の住まい(Collaborative housing)」について解説され、その社会関係資本モデルの特徴分析や典型的なプロジェクトについて紹介いただいた。通訳を交えながら、活発な質疑応答や意見交換が行われた。

### 4. 2017~2018年度の活動方針について

#### (1)体制

日本建築学会の事務局に登録する委員は計15名で2年更新です。2017~18年度の住宅の地方性小委員会の体制は下記のとおりです。地域ごとに2~3名程度に登録しますが、この小委員会通信の送付及び研究活動は、これまで通り、登録メンバー全員を対象としています。以下、敬称略

- ◆主査  
佐藤 由美 (奈良県立大学)
- ◆幹事  
吉田 友彦 (立命館大学)  
菊地 吉信 (福井大学)
- ◆委員  
馬場 麻衣 (北方建築総合研究所)  
佐藤 慎也 (山形大学)  
長谷川 洋 (国土技術政策総合研究所)  
川崎 直宏 (市浦ハウジング&プランニング)  
阪東 美智子 (国立保健医療科学院)  
葉袋 奈美子 (日本女子大学)  
内海 康也 (国土技術政策総合研究所)  
碓田 智子 (大阪教育大学)  
平山 洋介 (神戸大学)  
澤田 廉路 (鳥取大学)  
川田 菜穂子 (大分大学)  
小山 雄資 (鹿児島大学)

※この他、登録メンバー約80名

#### (2)WG活動

小委員会内に設置している3つのWGは、発展的に研究活動を継続します。活動はオープンにしていますので、ご関心のある方は、各WGの主査または、小委員会主査・幹事までご連絡ください。

①地域住宅統計情報WG:主査:真嶋二郎(地域居住政策研究室)・幹事:内海康也(国土技術政策総合研究所)

住宅政策の検討や推進にとっての基礎となる地域の住宅統計情報(住宅・土地統計調査及び住生活総合調査を中心に関連する統計調査)について、調査の項目や内容・集計解析手法、政策・計画への活用方法等に関する研究・検討を行う

②住宅市場政策WG:主査:川崎 直宏(市浦ハウジング&プランニング)・幹事:長谷川 洋(国土技術政策総合研究所)、渡壁 克好(市浦ハウジング&プランニング)

住宅政策の枠組みの大きな変化を捉え、市場メカニズムを活用した住宅政策の最近の流れを検証し、今後の住宅市場のメカニズムを活用した住宅政策のあり方を展望していくことを目的に、住宅市場政策について研究を進め、政策提言を行う。

### ③住まい・まちづくり学習WG:主査:佐藤 慎也(山形大学)

住まい・まちづくり学習にかかわる学校教育や住宅政策の変化に対応しつつ、東日本大震災後の新しい公共などの概念を取入れた地域再生や今後の震災に向けた防災・復興教育での「つながり」や「かかわり」の視点を含めた学校・地域・自治体・事業者・住み手等の参加と協働による住まい・まちづくり学習を展開していくための方法論や実践について引き続き研究する。

### (3)大会研究集会(パネルディスカッション)

2018年度日本建築学会大会は、東北大学(川内北キャンパス)を主会場として開催されますが、住宅の地方性小委員会主催のパネルディスカッションを下記の通り開催します。

◆日時:2018年9月4日(火)午前

◆テーマ:「人口減少時代の自治体居住政策

～今、再び公営住宅政策を問う」

◆主旨:人口減少が進む中、地方分権・地方創生が進められている。しかし、主体となる自治体による居住政策への取組みは様々であり、停滞もみられる。そこで、これまで中核的施策であった公営住宅政策を軸とし、今後の自治体居住政策について議論する。

◆プログラム案(2018年3月時点) 敬称略

1. 主旨説明: 佐藤 由美(奈良県立大学)
2. 主題解説
  - ①住宅セーフティネット法改正と自治体居住政策の論点: 長谷川 洋(国土技術政策総合研究所)
  - ②自治体居住政策の実態と課題: 福島県建築住宅課
  - ③公営住宅の管理運営と居住支援: 阪東美智子(国立保健医療科学院)
  - ④地域課題に対応した公営住宅等の活用: 山田 信博(札幌市立大学)
  - ⑤コンパクトシティと公営住宅等の立地政策: 小山 雄資(鹿児島大学)
  - ⑥EUの社会住宅にみる自治体居住政策: 川田 菜穂子(大分大学)
3. コメンテーター 檜谷美恵子(京都府立大学)  
北原 啓司(弘前大学)
4. まとめ 菊地 吉信(福井大学)

※テーマに関する議論、資料集の作成等、ご協力のほど、お願い申し上げます。(詳細は別メールにて)

※大会前日研究会(9/3)を仙台近辺で行います。

## 5. 2018年度春季研究会「奈良研究会」の開催案内

2018年度春季研究会は、奈良県のご協力のもと、下記の通り開催します。なお、参加案内・参加者募集につきましては、後日、改めて連絡いたします。

◆日程:2018年5月25日(金)～27日(日)

◆テーマ:「自然災害からの集落・住まいの復興(仮)」

○研究会:紀伊半島大水害からの復興 十津川村の取り組み・見学会(橿原市今井町)

○見学会:十津川村営災害公営住宅(谷瀬・高森)、橿原市今井町、その他歴史文化遺産等

2011(平成23)年9月、台風12号による記録的な大雨により、奈良県南部を中心とした紀伊半島山間部では、広範囲に及ぶ大規模な斜面崩壊がありました。それにより、多くの死者・行方不明者と、被災家屋合計180棟以上という大規模な災害が発生しました。その復興のプロセスを県・住宅政策の立場から報告いただくとともに、災害復興事業により整備された集落や高齢者施設を併設する公営住宅等の視察を行います。

今回は、5月25日(金)午後、奈良県橿原市内での研究会と重伝建地区の今井町の視察を行い、26～27日(1泊2日・バスツアー)に奈良県十津川村にて災害公営住宅の視察を行います。

## 6. その他

### (1)登録メンバーの拡大へのご協力

本小委員会活動はオープンな形式をとっているのが特徴です。春季と大会前日に開催する恒例の研究会の他、3つのWG活動や拡大委員会等、メールにて広く参加者を募集する形をとっております。このような小委員会活動をより活発化するために、会員の増大と若手の加入が必要です。地域の住まいや居住政策、住まい学習等に関心・興味のある方をご存知でしたら、お声掛けとご紹介をお願いいたします。

### (2)登録内容の変更時の連絡のお願い

2017年6月に登録メンバーリストの情報更新を行いました。その後、所属、連絡先等に変更があった場合は速やかに主査までご連絡をお願いいたします。